

# 令和7年度学校評価報告書

北海道小平高等養護学校長

## 1 本年度の重点目標

資質・能力の育成を目指した授業づくりの推進  
～学びと生徒の未来を繋げる教育活動の充実～

## 2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

●重点的に改善が必要な項目等について掲載します。

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程 学習指導	<p><b>【教職員】</b> 質問8「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」を育成する指導について、肯定的な評価（達成率）は91.3%であった。 教職員4名がC評価を付けているが、昨年度比ほぼ横ばいであり、A評価の割合は+14.1%となっている。</p>	<p><b>【保護者・生徒】</b> 保護者の質問2は昨年度の肯定的な評価（達成率）と比較すると、-6.7%の結果となったが、今年度も引き続き、達成率93.3%と高評価をいただいている。 <b>【学校運営協議会】</b> 令和8年2月28日開催の第3回学校運営協議会において、「AIを使いこなすにも、基本的な知識があつてこそ。」「多くの情報を鵜呑みにせず、真偽を判断するには考える力がより必要である。」というご意見等をいただいた。</p>
改善方策	<p>今後も研修を深め、学習指導要領が示す目標や内容を理解し、育成を目指す資質・能力を確実に身に付けられる教育課程の推進、授業力の向上に努めていく。</p>	
教育課程 学習指導	<p><b>【教職員】</b> 質問14「ICT機器を活用した指導の充実」に関する質問に対し、達成率は63.1%であった。昨年度と比較するとC評価が減少、A評価が増加しており、達成率は+8%となった。寄宿舎でもICT機器の活用が推進された結果と推察される。</p>	<p><b>【保護者・生徒】</b> 保護者の質問6「ICT機器の活用」に関する質問では達成率が100%であった。生徒の質問1の達成率も96.3%と高いことから、タブレットを活用した授業の充実について評価を得られている。 <b>【学校運営協議会】</b> 「商売でも、あらゆる産業で様々な形で現代は使われている。」「小平町にはICT支援員がおり、教員の負担が減っている。そのような制度を活用できないか。」「人との直接的なつながりも大切である。」というご意見をいただいた。</p>
改善方策	<p>前述の結果と関連し、主体的・対話的で深い学びを実現するための手段として、ICT機器の活用と日常的な学び合いを推進する。今後も、寄宿舎での幅広い活用と環境整備を積極的に進める。</p>	
研修 (資質向上の取組)	<p><b>【教職員】</b> 質問17「教職員の人材育成」に関する質問で、達成率は78.2%であった。8割に満たないものの、昨年度比+37.4%となった。校務分掌に位置付けた人材育成担当が役割を果たしたこと、働き方改革推進委員会の取組が効果的であったと考えられる。</p>	<p><b>【学校運営協議会】</b> 「留萌管内に一つの要となる特別支援学校の存在は貴重である。」「知的障がいのある方、グレーゾーンの方達の困り感を理解し、幅広い知識をもってほしい。」「コーディネーターが他の学校を訪問し、学校をつなぐ役割を果たすことで、専門性の維持を図ってほしい。」「校内研修をレベルアップする仕掛けを設定してはどうか。」というご意見をいただいた。</p>
改善方策	<p>時代の変化に応じた高い資質能力を身に付けた教師を育成し、質の高い教職員集団を形成することは全国的な課題ともなっている。引き続き、働き方改革に取り組み、学ぶ時間や他者との協働的な学びの機会の確保、高め合う組織づくりを行う。また、計画的な校内研究を推進し、より良いモデルとなるミドル層の育成を推進する。</p>	